## 特集はこまち対談



## ~函館での学生生活4年間~

## 嶋村 幸子 さん



(PROFILE)

1986年生まれ。滋賀県出身。 北海道教育大学函館校情報社会教育課程 社会文化情報コース4年 来春より、出身地の滋賀で国語教諭になる。

滋賀県から函館にやって来て、様々なまちづくり活動にも参加してきた北海道教育大学函館校4年生の嶋村幸子さんに、まちのことや学生生活の話をうかがいました。

丸藤:来春卒業ということですが、函館での学生生活はどうでしたか?

嶋村:何かしらいつもやっていて、すごく忙しかったなと思います。

丸藤:何でそんなに忙しかったんですか?

嶋村:教員養成課程でない中で教員免許を目指したので授業も多かったし、1、2年生の頃はモダンダンス・クラブの練習も毎日夜遅くまででした。それに、まちワーク研究室での活動も行いました。学生時代は色んなことができると思っていたし、やってみたかったです。ただ、予想以上に忙しくなってしまって・・・もっと遊びたかったですね(笑)

丸藤:3年生の時は、教育大学のまちワーク研究室で行っている「じろじろ大学」という活動の実行委員長として活躍しましたね。

嶋村:モダンダンス・クラブが体調の関係で できなくなった時、声を掛けてもらいました。

丸藤:どんな活動をしたんですか?

嶋村:子どもたちと地図作りをしました。学 生達だけで決めちゃうのではなく、子どもた ちと、どんな活動をしたいかというところか ら始めて、「地図を作りたい」ということに なったんです。

丸藤:それはいいですね。

嶋村:フィールドワークで西部地区を中心に 歩いたり、子どもたちなりに個人調査をする ようになったり。

丸藤:子どもたちが自分で調べるんですか?

嶋村:はい。例えば、坂についてとか、景色について、といった感じでテーマを決めて、 大学生が一緒になって歩いて調べて、最後は まとめまでやって、発表しました。



嶋村氏と丸藤センター長

丸藤:それは楽しそ うですね。

めだったし、学生スタッフの調整もしなきゃならないし、けっこう大変でした。でも、とにかく子ども達と一緒に活動できること自体が楽しかったですね。

丸藤:子どもが好きなの?

嶋村:はい。大好きです。可愛くて。しかも子どもたちが、最初の5月に出会った時と最後の発表の2月の時を比べると、やっぱり顔つきが違ったり、函館の見方が変わったり、友達とのコミュニケーションのしかたなども変化していて、そういう姿をみると楽しいし嬉しいです。

丸藤: 嶋村さん自身も変化しましたか?

嶋村:経験そのものが、もの凄い財産になったと本当に思います。最初は、自分にできるかなと不安でしたが、色んな人に助けられた経験は誰もができることじゃないですし、つながりや出会いも得ました。

丸藤:函館の印象は?

嶋村:私、散歩が好きなんですけど、歩いていて気持ちの良い街だなと思います。西部地区は特に、ただ歩いているだけなのにその時々によって街の表情が違って見えるし、景色もきれいですし、ゆったりしているし。それに、ちょうどいい大きさで、学生がまちづくりに参加しやすい環境があります。

丸藤:故郷は滋賀県ですよね。

嶋村:函館に来て、まちのことを考える機会がすごく多かったんですが、それを通して逆に滋賀のことを何にも知らなかったんだと痛感しています。卒業後は滋賀に帰りますが、函館で養ってもらった目で地元のことを見て、

もっと地域に関わっていきたいと思います。

丸藤:中学校の国語の先生になるんですよね。

嶋村:はい。理想的な先生になれるよう頑張ります。それに、地域とのつながりも大切にしていきたいです。地域のことをちゃんと知って、誇りをもてる子どもたちに育てることが大切だと考えています。理想論かもしれないけど、やれることはやってみたいと思っています。

丸藤:同年代の学生に、函館で楽しい学生生活を 送るためのコツを伝授してください。

嶋村:大人の人達といっぱい関わることは、 すごく大事で大切だと思いました。地域に出 て行くと何かしらつながりや広がりができて、 勉強になります。大学の中に居るだけでは学 べないことがたくさんあります。まちを歩い て、たくさんの大人の人と知り合って、お話 をして、色んなものを吸収していけると、凄 い4年間になると思います。

丸藤:これからの夢は?

嶋村:めちゃくちゃ未熟者なので、できることはまだ少ないですけど、家族や友達にも支えられながらですが、できることをやろうとする積み重ねで、今の自分がある恩返しを少しずつでも地域や社会にしていきたいですし、しないと嫌だなと思います。

丸藤:函館での経験を回りの人に話すことも、恩返 しのひとつですよね。

嶋村:それはもう、たぶん、めちゃくちゃ言 い続けると思います。うるさいくらいに(笑)

〈聞き手〉

函館市地域交流まちづくりセンター長

丸藤 競

